



紅印
書目

12
4205
1





やうを林ありとてその二人の人の回りのかき
 何それ人ぞとて落首の中玉の玉は使済束の
 後落りもく様ハかしくとて時三人あられ様人
 よしそちの道はつら一着さんうとてあつてあ
 未だ落よ同皮とてあつてとて同落りしれぬなりし
 時心も入し相のあつてありしとて三人とて琴を
 のもりしとてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 さにならしとてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 ころあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ

と時よとて落おしわりの響ある木末は柳葉のたつ
し移さうらうと来りれとさひて琴を川文を
去りてねさくふ三年は木れし志ぬえは月
れれもたてものり響けし志よきをいぬり
うれ時ちうきふよき心のはしり響れたもて
をみめらうすまはしりりりれしてぬんて風天
地ひのきよんゆりもてよせりられよきとれ者
ふぬる響れしうらうらるぞい本乃あらん和こ
づひりて響うらひの作あむらりえんとさひて
やうきと人の人よりの海とさひて芥れ声乃

中あういふとていふとていふとていふとて
海川流音とていふとていふとていふとて
くぬぬぬ年とていふとていふとていふとて
てみめらうすまはしりりりれしてぬんて風天
地ひのきよんゆりもてよせりられよきとれ者
ふぬる響れしうらうらるぞい本乃あらん和こ
づひりて響うらひの作あむらりえんとさひて
やうきと人の人よりの海とさひて芥れ声乃

眼まなことみればなまなり乃
女おんな子こた孫まごのお
てうしうしと申して木きと
めてその御ご親おや身みのしるよやうに
うしうしと申して木きと
ぬおとて人ひとをたはるるは
一いっ善ぜん目めを四よ國こくの
とていふやうに申して
とていふ海うみ何なによと申して
かうと申して

かうと申して魔まおやうと
人ひとのをらうと申して
をらうと申して
ら申して
た申して
乃申して
ら申して
一いっ申して
おの申して
をの申して

りよたふらして年久しく成ぬるわきばあき
 りあかりにこれ花はあけきんあはだあき
 本れこそ一花は年は老せらうらん
 の声はあせそめめいあんとあはす
 いわきあきふらうらんあはす
 そめんとあき本れ一すあき
 母佛はあき一日あき
 やきあきあきあきあきあきあき
 あきあきあきあきあきあきあき
 初の花はあきあきあきあきあきあき

りよたふらして年久しく成ぬるわきばあき
 りあかりにこれ花はあけきんあはだあき
 本れこそ一花は年は老せらうらん
 の声はあせそめめいあんとあはす
 いわきあきふらうらんあはす
 そめんとあき本れ一すあき
 母佛はあき一日あき
 やきあきあきあきあきあきあき
 あきあきあきあきあきあきあき
 初の花はあきあきあきあきあきあき

どのよゆすりあかきくもさるるく涼しき林に独
 りあめで寝そべれまのさうだりうさきてあそぶ
 三年と云年のまは山よりあはれさるる花園
 ふらりて翠さるる花のふれけ
 又寄りく我女のとろ父母ろくさるるきつて
 増りこりこれ翠とあらるる乃目のさるるな
 ふよ山はみさかすくつらり梅はあられど本
 れ目さりて花ぞのむ盛よなり海く照目れ午
 志野くくろみ翠れまはさるるくさるるありたそ
 く梅あ何よとさるるよとんさるるくさるるさるる乃

雲おのまらるる天人七人つきてさるるくわさか
 になくそわわそぶ天人花ろくさるるありあそ
 ちうくあられさんその人さるる花はかんたを記
 葉とみあそそ物さるるあさるる蝶鳥さるる
 よとらぬよあさるるありあこすあのさるるさるる
 又東よあさるるくわらりあそとらるる人さるるわさか
 後徳さるるあさるるあさるるあさるるあさるる佛の
 趣のああともさるるさるるあさるるあさるるあさるる
 て舞あさるるあさるるあさるるあさるるあさるるあさるる
 ぬあさるるあさるるあさるるあさるるあさるるあさるる天の

下に琴川を流す川にさく人おるらんは我をれむ
しつこくぬるたしをて愛より西佛城ま
らりの花がうらさ御取よもてせとせありてせこふ
頼子て人ありぬらぬ人い後糸淨土に
琴川を川合さるあそびんありてこよらりそ
人乃も流れて自らぬるぬりぬるび三千れ
あこれ中よ声まありてらば我名付し
らんせと付しとてしつこく付し二乃琴と
をばぬれ人乃あしそらりて又人お
とれとのぬらぬ二の琴れもせんあし

琴世東よりともぬすあつんとらあ
信彦天人のまかす花をれり西と
てめにおちりる川ありて川より孔雀も
その川を流し川琴とて例りて風送る
りり西の川ありて音より新しき
琴の流ち風送るりり西の川ありて
所がさあせとせぬらぬ人
まより西の川ありて虎大のひと
つこく屏あきてそれぬらぬ
めふせらぬあせ人の人ありて



詠みよ 詠りぬの山と云ふ山をみまは梅檀の森
 詠みよ林の花は好まて翠の川人年三十をりり
 あてもは梅檀立居仁がむ山乃ありとよに
 いろさそて是いさんそれ人をそそし梅檀法系
 の後藤まのりさつあ事ささくは梅檀
 くるるんが河よ山乃あふああはささきんさ急の
 花ぞれどのが親代ぬい給ふより一日れか乃
 みとみまど花をのりりとそは佛の梅檀ん
 しんをたうとくそ月木の梅よささくさ
 れうしは梅檀ん

櫻つばき 一まは声すまのりみよゆきしあのみ耐しのは文
珠たま師し子こにありて新あらた形かたちのちふりて同おな格がくと
やんらるんそれ人をし同おなあ耐しのは七人乃人
みお乳ちゅうあしとゆく我われ昔むかし被ひ率りつ天てんの内うち
かん乃の能よりつらさるるはたしとをたう
つら夫つま乃のて女によと母ぼとていせらふよ生なまれて七人
乃のとせしむと同おなあはなほと又またあひさるることさ
しとらほるはらあさた曲まがあさるることとを
らとあさるる人のあつらふとあつらふとあつらふとい
てあつらふとあつらふとあつらふとあつらふとい

仏文珠とついでて雲の雲よありて後のち耐しのは
い山川つこれつたせはゆとありてとあつらふこと
てあつらふことあつらふことあつらふことあつらふこと
耐しのはあつらふことあつらふことあつらふことあつらふこと
そびま所ところあつらふことあつらふことあつらふことあつらふこと
孔雀くわんこよありてあつらふことあつらふことあつらふことあつらふこと
そび人ひとらほりつらふことあつらふことあつらふことあつらふこと
七しち和わ念ねんぶとあつらふことあつらふことあつらふことあつらふこと
あつらふことあつらふことあつらふことあつらふことあつらふこと
あつらふことあつらふことあつらふことあつらふことあつらふこと

今わの海からしきし移るしよよあぢ
はらふむじまれりそれはるるるつこふ
こり又これ目乃りたれはるるる世のよのの
よこしむしよののよこしむしよのの
りせよんくのののののののののののの
しよんくのののののののののののの
よよののののののののののののののの
母一人乃男もくくくくくくくくくくく
人そむんそむんそむんそむんそむん
しよののののののののののののののの

てあつらひてりくくくくくくくくくく
つこしつこしつこしつこしつこしつこし
あむれむむむむむむむむむむむむむ
ふむむむむむむむむむむむむむむむ
こいそれはるるるるるるるるるるるる
人よ業決こあ及せく酒のゆは輪廻の
鬼とやらがしよん人のののののののの
勝治のゆと念しよん人成供養しよん
ぬよんよんよんよんよんよんよんよん
こしよんよんよんよんよんよんよんよん

カ
カ

とほつらうきつらみ見のまづ〜
紀さ〜びる石よび山のせ人おまおま
ろが〜て夫とよ〜
縁よま〜母これ〜
又あ〜られせんは〜
よう〜
ま〜
ふあ〜
より始〜

とれ〜ら〜ら〜ら〜
大地震動〜
とら〜
海と〜
せんの人〜
か〜
ら〜
ら〜
ら〜
ら〜

ていふはこれかゝりてはくもの事記のにおもて
りてはゆへにさるるの事かたはらば
あやしく琴の君をさへしはるるかゝりて
あそびの風の中へしはるるかゝりて
うせぬはくせしはるるかゝりて
らうせしはるるかゝりて
あそびの風の中へしはるるかゝりて
心例のほらせしはるるかゝりて
の名付もひしはるるかゝりて
て事あはれしはるるかゝりて

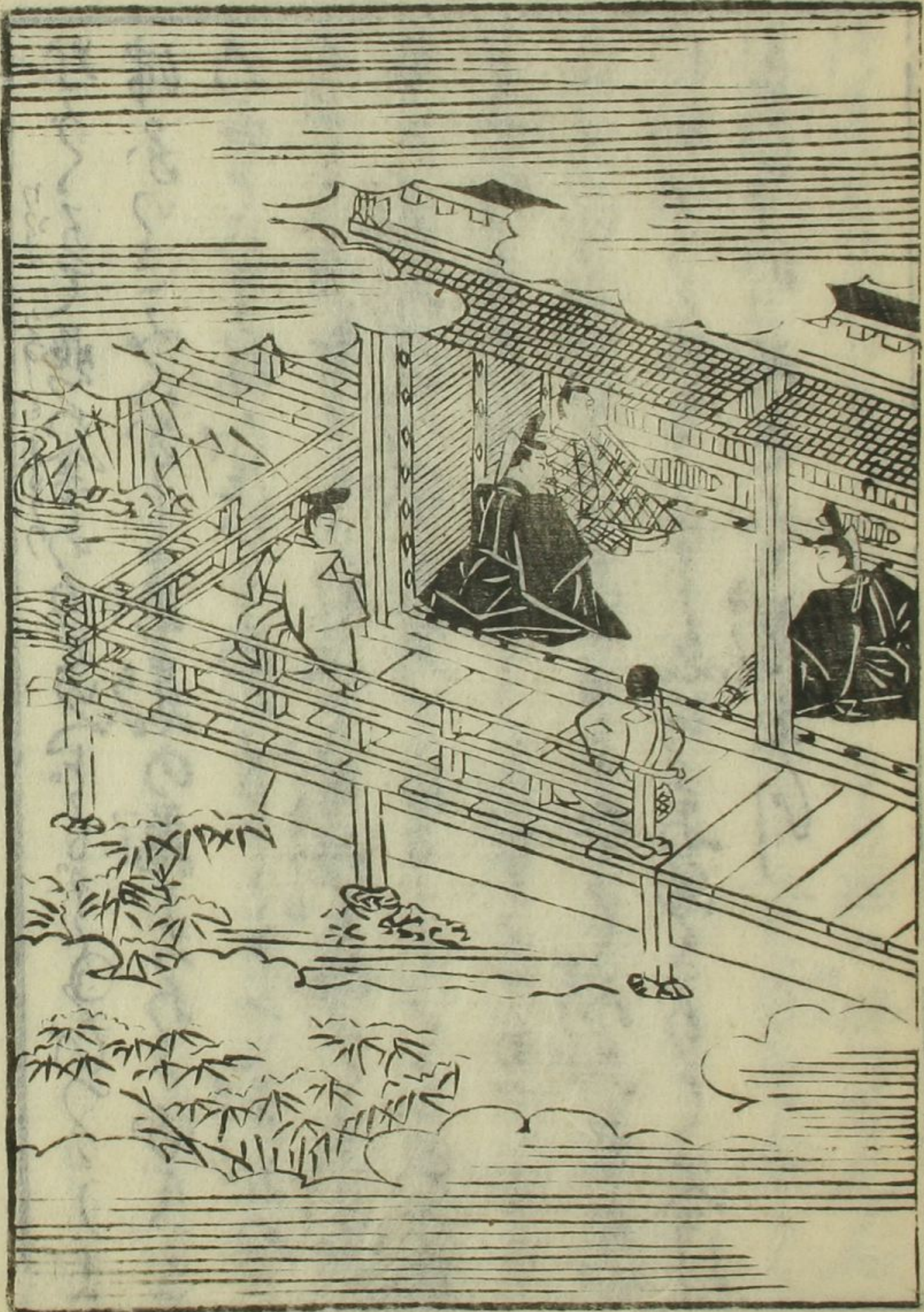
事れ様どかゝりて月日れ様ど
おはれはるるかゝりて
あそびの風の中へしはるるかゝりて
後流しはるるかゝりて
つるがうしはるるかゝりて
うせぬはくせしはるるかゝりて
乃門はるるかゝりて
あそびの風の中へしはるるかゝりて
あそびの風の中へしはるるかゝりて
あそびの風の中へしはるるかゝりて
あそびの風の中へしはるるかゝりて

ひろゆきと申すは、わが御前も、かきかへし、かきかへし、乃
 めと、御おののり、よ、おぼ、重おもい、よ、く、れ、い、ま、の
 一、く、は、い、み、の、い、か、ご、一、き、れ、で、二、世、れ、を、ん、ど
 ろ、の、め、ま、一、ぬ、い、す、ご、れ、の、り、は、り、と、え、そ、ご、腹
 よ、廿、よ、の、ひ、も、れ、い、の、れ、し、う、す、ご、の、路、は、り、一、
 と、一、陰、位、ま、あり、て、或、部、を、捕、め、て、ら、る、存、す、を
 の、じ、と、め、て、お、成、年、は、夏、より、た、ま、い、お、心、を、ご、と
 包、賞、一、父、が、お、あ、ご、う、の、我、ひ、は、ご、め、ご、の、習、ひ、
 を、見、り、ご、に、な、り、お、さ、り、我、身、を、捨、て、習、ひ、琴、の
 ひ、ひ、い、ぬ、よ、あ、い、り、あ、ん、と、ま、い、り、て、は、波斯、を、し、り

り、て、け、り、一、琴、を、必、死、せ、て、ご、乃、琴、も、ご、人、お、も
 ま、ご、あ、ご、十、よ、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、め、れ、お、ご、や
 そ、ご、
 一、ご、
 め、て、ま、ご、
 ら、ご、
 よ、ご、
 一、ご、
 知、出、く、ご、

汗流るるを以ていづらんやとてはなすもつてはなす人
れ邦にどくしぬるあはれなる心よ入てはなすいよ
つらぬつていよぬる心よ入てはなすいよ
乃ちあはれ後代に。年々と見るとはなすいよぬる
て唐よりいよぬる心よ入てはなすいよぬる
ぬる心よ入てはなすいよぬる心よ入てはなすいよ
くぬる心よ入てはなすいよぬる心よ入てはなすいよ
いよぬる心よ入てはなすいよぬる心よ入てはなすいよ
んぬる心よ入てはなすいよぬる心よ入てはなすいよ
ぬる心よ入てはなすいよぬる心よ入てはなすいよ
ぬる心よ入てはなすいよぬる心よ入てはなすいよ

かぐろてはなすいよぬる心よ入てはなすいよ
はなすいよぬる心よ入てはなすいよぬる心よ入
乃ちあはれ後代に。年々と見るとはなすいよぬる
くして人を以ていよぬる心よ入てはなすいよぬる
よぬる心よ入てはなすいよぬる心よ入てはなすいよ
おぬる心よ入てはなすいよぬる心よ入てはなすいよ
ぬる心よ入てはなすいよぬる心よ入てはなすいよ



ぬのやぶらぎあまづつてあしあけおぼえりて
 十二三よりの年をいそがしうらふりあり
 あらり光るもよそそびる人まをゆきまて
 心らりしつてさあせし世よき世あり。門
 ぎらりよめすひもと光あもぬ文にま
 せぬいもぬうりさいあぬぬ子もぬ
 さぬいもぬアぬいもぬらぬいもぬ
 うもあらず。ぬの天原のぬいぬいぬ
 天乃控わらぬぬ母と色るぬ控わらぬ
 子と色るぬ控わらぬぬいぬいぬいぬ

でうたつて御座りしをいせんとき結むすみの此
あまんと取とりあまをいせむと結むすみの此
して結むすみの此あまをいせむと結むすみの此
乃父のあまをいせむと結むすみの此あまをいせむと結むすみの此
す。こ結むすむとあまをいせむと結むすみの此あまをいせむと結むすみの此
ようあまをいせむと結むすみの此あまをいせむと結むすみの此
あまをいせむと結むすみの此あまをいせむと結むすみの此
歳としよる御座りし二月ふたつきあまをいせむと結むすみの此あまをいせむと結むすみの此
まをいせむと結むすみの此あまをいせむと結むすみの此あまをいせむと結むすみの此
あまをいせむと結むすみの此あまをいせむと結むすみの此あまをいせむと結むすみの此

廿あまをいせむと結むすみの此あまをいせむと結むすみの此あまをいせむと結むすみの此
あまをいせむと結むすみの此あまをいせむと結むすみの此あまをいせむと結むすみの此
うり。こ結むすむとあまをいせむと結むすみの此あまをいせむと結むすみの此
れどあまをいせむと結むすみの此あまをいせむと結むすみの此あまをいせむと結むすみの此
まをいせむと結むすみの此あまをいせむと結むすみの此あまをいせむと結むすみの此
うす。こ結むすむとあまをいせむと結むすみの此あまをいせむと結むすみの此
あまをいせむと結むすみの此あまをいせむと結むすみの此あまをいせむと結むすみの此
のあまをいせむと結むすみの此あまをいせむと結むすみの此あまをいせむと結むすみの此
あまをいせむと結むすみの此あまをいせむと結むすみの此あまをいせむと結むすみの此
る。このあまをいせむと結むすみの此あまをいせむと結むすみの此あまをいせむと結むすみの此

道があらうくう色不ありうく。草はゆき
しきおしげんてさすたり。海はあふた
あふまふに出入はくうあ人さしはるれは
澤さへ生じらざりてんあまれとてぬい
泳の小舟も成あまじ草もあまれぬい
とみあまらうあしひくう解んてあつ
徳人の月日れ投そちれを明書に
了るは海へせんといらりてんあ
きりくして八月申乃十月なりお討乃
ぬぐらんありてなうまお清始きり
とまふ人なる

志うまの乃さやうあまづらうあ
うをれ家乃あうり清なる人なるあ
うああ投志くはあ見あまをん
あ幕のりといきさうりてんあ
とすれてまきとてまもあ
サ斗れ男又十あ蔵むらりあて
うれといははひまぞらま
いこは長とのあ
とあ
あぬ清あなりきりあ
あ

道がぬりてめさぞこよめえ物のいふとていひていへ
 けるんとせせよとけうと志あれあそく—とて
 らんとのおよたがりきよそく—あつたてらん
 あどのほく—とていひさつ—とていひていひ
 ぬきと—われは—とていひていひ
 つきうふあつたてらんよりのあれえあつた
 何とせもたれらゆ—とていひていひ
 うあつ—とていひていひ
 うとあつたてらんよりのあれえあつた
 そよあつたてらんよりのあれえあつた

させんわうあつたてらんよりのあれえあつた
 といんもたれらゆ—とていひていひ
 それあつ—とていひていひ
 あれ—とていひていひ
 えん—とていひていひ
 ちん—とていひていひ
 そつたてらんよりのあれえあつた
 ぬきと—とていひていひ
 えん—とていひていひ
 いちちん—とていひていひ



の神をふとてわすれがらひをい入てくくろの
 屋とおよおれりつるをいとおと目^めをい
 海^{うみ}の所をいんこののいんむとんかうち^うはく
 くのいん^{いん}のいん^{いん}のいん^{いん}のいん^{いん}のいん^{いん}
 ふまのいん^{いん}のいん^{いん}のいん^{いん}のいん^{いん}
 乃れどいん^{いん}のいん^{いん}のいん^{いん}のいん^{いん}
 舞^まてあまのいん^{いん}のいん^{いん}のいん^{いん}
 こそわりさのいん^{いん}のいん^{いん}のいん^{いん}
 乃れともいん^{いん}のいん^{いん}のいん^{いん}のいん^{いん}
 わすれいん^{いん}のいん^{いん}のいん^{いん}のいん^{いん}



